

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大羽精研株式会社 D工場	階数	地下0階地上1階
建設地	愛知県豊橋市寺沢町字深沢161-1 他31筆	構造	S造
用途地域	都市計画区域内 市街化調整区域	平均居住人員	400人
気候区分	7地域	年間使用時間	2,025時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年12月 予定	評価の実施日	2021年10月29日
敷地面積	28,620 m ²	作成者	玉井設計 玉井 秀一
建築面積	3,881 m ²	確認日	2021年10月29日
延床面積	3,855 m ²	確認者	玉井設計 玉井 秀一



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

★ ★ ★ ★ ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ★

30%: ★ ★ ★ ★ ★ 60%: ★ ★ ★ ★ ★ 80%: ★ ★ ★ ★ ★ 100%: ★ ★ 100%超: ★

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 73% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 73%

④上記+ 73%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.0

③敷地内の緑化

2.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

34.7 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

②資源の有効活用

3.1

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	3.0	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	3.0	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	3.0	-	-	
1.3 吸音										
1.3 吸音			-	-	-	-	3.0	-	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 外皮性能			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御										
2.2 湿度制御			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2.3 空調方式										
2.3 空調方式			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 方位別開口			-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.2 グレア対策										
1 昼光制御			5.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.3 照度										
3.3 照度			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.4 照明制御										
3.4 照明制御			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
4.2 換気										
1 換気量			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 自然換気性能			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観(天井高)			3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画			3.0	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数			0.3	3.3	0.33	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		-	3.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	3.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水・雑排水等にB以上使用	-	5.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23	-	-	-	-	
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備			0.1	2.6	0.19	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
3 電気設備			3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
5 通信・情報設備			3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.4	3.6	0.48	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	工場部分6.4m以上 273.55/3,847.33=0.0711	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.44	3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を使用した断熱材不使用	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	-	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止		燃焼機器なし	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	4.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:34.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	周辺の環境と一体化なるように緑を設け、外部からアクセス動線も考慮しながらより安全な環境を作る。
Q1 室内環境	注)「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 対象外。
Q2 サービス性能	工場作業部分の階高を高く確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺に植栽を多く設け緑化スペースを確保することで良好な景観の形成を目指した。
LR1 エネルギー	建物全体にLED照明を採用するなど省エネルギー化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	有害物質を含んだ建材の不使用に努めた。
LR3 敷地外環境	駐輪場の新設や適切な台数の駐車スペースの確保。また植樹帯を設け、地域の緑化に努めている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。